

研修会と互礼会開く

広島県鉄構工業会、60人

【広島】協同組合広島県鉄構工業会（理事長＝山本泰徳・スアントス社長）は25日、広島市内のホテルで研修会と新春互礼会を開催、約60人が参加した。研修会では日鉄住金建材がノンダイアフラム形式の柱はり接合部材「NDコア」や耐火補強金を不要にした耐火認定スラブ合成デッキ「スーパードアッキ」、昨年10月に販売を開始したコラム溶接時に内面ビートの切除が不要な裏当て金「カドピタBF（ビードフリー）」について説明。カドピタBFは同社のコラムを在庫する流通店にセ

ットで在庫し、デリバリーできる体制の構築を進めていることを紹介。現在、製造拠点からの輸送となっているため割高感があるが、可能な限り早く在庫体制を整え、既存製品とそん色のない価格での供給を目指す。続く互礼会には来賓として広島県土木建築局営繕課の担当官、組合主催の鉄骨制作管理技術者講習会の講師を長年務めた坂邊光正・坂辺工業会長が出席。席上、山本理事長はあいさつに立ち「いまはこの専門工事業も同じ悩みを持っている。経営環境は良くなっているが、人材確保が大きな課題になっている。企業は生き物であり、人が入れ替わっていつか新陳代謝することで成長していく。この場にも、そこに不安を抱いている方は多



坂邊会長（左）に感謝状と記念品が贈られた

いと思う。業界としてどうやって人手不足を解決していくか考えていかないといけない。ほとんどの仕事は最後に定年があるが、技術・技能が重要なわれわれ



れファブリケーターには定年はない。やる気になれば70歳でも、75歳になっても続けられる業界だ。自分の意志で定年を決められる、これは大きな魅力だと思う。この点をしっかりとPRし、人材確保に取り組んでいきたい」と語った。その後、坂邊会長の組合発展への貢献に対し、感謝状と記念品が贈られた。

あいさつする山本理事長